同窓会報
興學

創立60周年記念式典 盛大に挙行される

発行所
山形県西置賜郡
小国町大字岩井沢
621番地
小国高等学校内
電話(62)2054
小国高等学校同窓会
事務局

創立六十周年を迎えて

同窓会長
佐藤祐一
昭和三十一年度卒(第八回)

米大手証券リーマン・ブラザーズの破綻に端を発した金融危機が巨大な嵐となって世界中を駆け巡り、私たちにも襲いかかる激動の中、同窓生の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

母校も昭和二十三年四月一日先人たちのご努力により定員三百名の定時制高校として発足、以来創立六十周年を迎えました。去る十月十七日に、県教委をはじめ、県議会議員、町長、町議会議長、歴代校長、町内小中学校長等、多数の来賓のご臨席をいただき、記念式典が盛大に挙行されました。

その後、五輪メダリストの有森裕子氏を迎え「よろこびを力に…」と題して、あきらめない、人間力を高める、今までの生き方などどうでもいい、これからどうするか。九十％だめでも十％にかける。など町内の全中学生と本校の生徒、一般町民の方々に豊富な実践に基づくお話をされ、聴講された皆さんに深い感銘を与えてくださいました。

六十周年にあたり生徒昇降口周辺の環境整備工事を同窓会での実施を計画したところ、県教委のご理解により改修工事を施工していただきました。

記念イベント「花回廊おぐに」として、生徒や学校職員の方々が、九〇〇個のフラワーポットに三五〇〇の花の種を蒔き、苗を作り育て、町中を飾って六十周年を迎えることが出来ました。育ててくださった皆様方に深く感謝申し上げます。

今年は変革の年で、アメリカではオバマ大統領、山形県では吉村美栄子氏が当選し、初の女性知事が誕生しました。

母校の生徒たちも、先生方の力強いご指導により山大工学部三名合格、各種検定試験一級合格、部活では陸上県新人大会で走り高跳び優勝等目覚しい活躍をしています。

今後は皆さんの力で高校存続運動を継続させ創立一〇〇周年を目指しましょう。

創立六十周年記念式典にあたり

ごあいさつ

校長　斎藤裕司

同窓会の皆様には、母校の教育活動と後輩の育成のため、物心両面にわたり格段のご協力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、今年度は本校創立六十周年の記念すべき節目の年でした。創立記念式典では、多くのご来賓・同窓生・保護者・町民の皆様から祝っていただき、教職員・生徒一同、気持ちを新たにして、さらなる飛躍に向けた心構えができましたこと、厚く御礼申し上げます。

式辞では、戦後の衣食住にも困窮していた時代に、地元に高校を設置しようとする地域の人々の熱い思いと、校舎建築や校地整備に汗を流した保護者、生徒たちの奮闘の歴史を語ることで、今の生徒たちに、ここで学ぶことができることへの感謝の気持ちと、これから地域社会に貢献しようとする覚悟を求めました。

また、記念講演会では同窓会のご尽力により、女子マラソン・メダリストの有森裕子さんを講師としてお招きしました。町内の中学生や町民の方々もいっしょにお話をお聞きし、生徒たちにとって多くの感動と勇気をいただき思い出深い講演会となりました。

このたびの創立記念事業では、町民の皆様に感謝の気持ちを表すために、生徒たちの手による「花回廊おぐに」を企画しました。町内の通りをマリーゴールドや日々草が咲き揃うフラワーポットを設置して華やかに彩り、これまで本校を支えていただいた方々に感謝の意を表しました。加えて、同窓会の心強いご支援により、生徒通用門から昇降口に至る通路と消雪装置の改修工事が県の事業として式典日前に竣工され、生徒たちは明るく立派に整備された通路を通って毎日元気に登校しております。

今後とも小国高校の教育向上に職員一丸となり取り組んで参りますので、同窓会の皆様にはなお一層のご支援を何とぞよろしくお願い申し上げます。

創立記念講演を聴いて

栗田寛美（昭和四十二年度卒）

私はこれまで「努力」という言葉とは縁のない人生を送って来たと自認しています。そんな私がこのような原稿を書くことになってしまいました。不適当といえばこれ以上不適当な人選は無いと自分では思っています。

小国高校創立六十周年の記念式典のあと有森さんの講演を聞かせて頂きましたが、いかにもアスリートらしい歯切れの良い話し方をする人だなーという第一印象でありました。

だいぶ時間が経過しているので、お話の内容は詳しく覚えておりませんが、印象に残った言葉をつなぎ合わせて彼女の訴えたかったことを私なりに纏めてみたいと思います。

有森さん自体は子どもの頃から決して足腰も丈夫ではなく、走ることも好きではなかったとのこと。そんな彼女がどうしてオリンピックのメダリストに為りえたのか？

それは正に彼女の生き様が上杉鷹山の残した言葉「為せば成る、為さねば成らぬ…」の精神と通じていたからであると思います。チャンスは向こうからやってくるものではないし、自分の可能性も努力しなければ見えてこない、「自分は絶対にこうなりたい！」強い意思で明確な目標を持ち、目標を達成するためにやる気と根性を失わずに努力していれば必ず道は開ける。有森さんはそんなことを言っていたのではないでしょうか。

小国高校の卒業生、在校生諸君の中にもそうして目標を達成し、大きな喜びを勝ち得た挑戦者は多いと思います。

「…成らぬは人の為さぬなりけり」自戒の気持ちと同時に、これから挑戦を考えている人には是非心に留めて欲しいものと思います。

町民から見た花回廊おぐに

柴田伸也
（昭和五十四年度卒）

昨年十月の始めに、一本の電話があった。「小国高校ですがこの度、創立六十周年記念という事で、商店街に花のプランターを飾りたいのですが、協力していただけないでしょうか？」という内容だった。返事は迷わず、「喜んで協力しますよ」と言うと、「ありがとうございました」と嬉しそうな声。後日生徒、職員たちが丹精込めて育てた花が、商店街の沿道を飾った。

これから冬に備えて、商店街からは花などが無くなりさみしい雰囲気だっただけに、色鮮やかな花の贈り物はまるで春が来たかのように通りが明るくなった。「すみませんが、花の水やりだけ宜しくお願いします。」と生徒たちが一軒一軒声をかけてまわっているその姿は、自分たちが一生懸命に育てた花で町を振やかにしたい、と言う気持ちが伝わってくるとてもすばらしい企画だったと思います。

十一月中旬までの間、花を見たすべての町民の方々が、「とてもきれいだな」と、思ったのではないでしょうか。創立六十周年だけと言わず、毎年行って欲しいと思います。

この他にも小国高校は、近年ボランテア活動やチャレンジショップ、また大学との連携による研究発表や各種検定一級合格など、幅広い分野で活躍している。

こういった頑張りは必ず将来に生きてくると思う。そして、夢を持てば努力する理由になり、努力を重ねれば自信が生まれる。

将来に希望を持ち輝いている自分の姿を想像して、これからの高校生活そして、卒業してからの自分の道を歩んでほしいと思います。

頑張れ！小国高生徒諸君

役場前入口に飾られたフラワーポット

学校の今時

今年度は**本校創立六十周年の節目**にふさわしく、生徒の活躍が例年に増して目立った年でした。

一年生が取り組んでいる**地域文化学は三年目**を迎えました。七つの大学・短大から七名の先生方に直接ご指導をいただき、それぞれの研究テーマに取り組みました。

今年は、町内での野外調査や町外への工場見学、県外への大学訪問など積極的に学校の外へ飛び出して調査研究を行う班が目立ちました。東北芸術工科大学主催で肘折温泉で開催された**「高校生のための地域学ゼミナール」にも参加**するなど大変に活発な活動が続きました。

町民報告会では「町の魅力発信」をテーマに取り組んだ班が、**情報誌「Oguu」の企画・取材・編集**の取組みを発表し大変好評でした。

その後、「Oguu」は山形新聞やＦＭ山形でも取り上げられ広く県民の知るところとなりました。フリーペーパーとして町役場、総合センター、道の駅などで無料配布され多くの町民に読まれています。

さらに、**「市野々・下叶水の民俗文化について」**のテーマにした研究レポートが**第四回地域の伝承文化に学ぶコンテスト（國學院大學・高校生新聞社主催）団体の部で佳作に入選**し、代表生徒二名が東京での表彰式に出席し、賞状と副賞の盾をいただいてきました。

また**クラブ・ユース・フォーラム（国際ソロプチミスト長井が隔年で開催）**に二年生三名が初参加しました。「美しい地球を守ろう」をテーマに昨年の地域文化学の研究を基に発表し、置賜地区（米沢・高畠除く）の高校代表生徒と意見交換を行いました。

三年生の進路面でも生徒の頑張りが見られました。進学、就職ともに順調に合格・内定が決定しました。

特に進学では**山形大学工学部二名及び地域教育文化学部一名が合格**し、本校始まって以来の「快挙」と教職員一同、喜んでいます。

また、**センター試験**には進学希望者十五名が受験しました。大学での学習にも充分に対応できる確かな学力を身につけようと早くから取組んできたものです。

卒業後もそれぞれの場でさらに活躍することを期待しています。

（教頭　玉橋博幸）

アメリカ短期留学生報告

ベニスハイスクール

高校入学以前から短期留学希望

三年二組　鈴木大介

アメリカへの短期留学は高校へ入学する以前から挑戦したかったことの一つでした。みるもの、食べるもの、飲むもの、周りの人間、全てが今までと全く違うという環境で生活をすることは自分を磨けるこれ以上ないことだと思っていたからです。ですが、自分が想像していた以上にこの環境は厳しいものでした。

特につらかったのは現地の皆さんとのコミュニケーションです。現地で二週間通ったベニス高校では特に大変でした。小国高校でのＡＬＴの先生との会話速度よりも、現地の学生の速度が早く、初めのうちはとにかく聞き取ることが大変でした。自分から話しかけても、いざ会話を始めると会話が成り立たない。そんな日々が続きました。ですが日数を重ねるうちに次第に速度の速い英語にも慣れ、何とか聞きとることができるようになりました。さらに、ホストファミリーのジャスティンはそんな私をみかねてたくさんの友人を私に紹介してくれました。初めはどうしようもない私でしたが、周りの人たちの協力のおかげもありどんどん友人を作ることが出来るようになっていきました。日本に帰る直前には初めの頃には考えられなかったほど多くの友人が別れを惜しんでくれました。

二週間という短い期間でしたが、私はこの十四日間で得た友人たちを一生忘れることはありません。もし将来再び訪れる機会があれば、彼らに再会したいと思っています。今回の短期留学をご支援、ご協力してくださいましたすべての人たちに感謝しています。ありがとうございました。

自分を成長させてくれた短期留学

三年二組　小関　奈穂

私はこの短期留学を通して様々なことを学びました。

自分と違う国で育ち、違うことばを話す人とコミュニケーションをとることも楽しいものでした。ただ、そう思えるまでは、言いたいこともうまく伝わらず、相手の言うこともよく理解できず、周りの人が話していることも自分だけには理解できない状況に疎外感を感じ、早く日本に帰りたいとばかり考えていました。

自分の英語にも自信が無かったため、話しかけるのも億劫でした。しかし、ホームステイ先のお母さんの職場へ連れて行ってもらった時、そこで会った日本人の女性の方が「いい機会だからやれるだけやってみるといいよ。言葉が話せないのは当たり前なんだから、恥ずかしい事なんて何もないよ。」と言ってくれたことで、自分を応援してくれている人たちに胸を張って帰れるくらい、アメリカの良さや英語の楽しさを体感しようと思いました。それからは単語が聞き取れることや、自分の英語の技術でも意思の疎通が出来ることが嬉しいのと同時に、楽しいと思えてきました。ホームステイ先の子と映画を見たり、友達と海へ行ったり買い物を楽しめるようになって、友達の兄弟や両親と、色々な人と出会い、会話を交わし、自分を表現できました。

高校生という時期に、価値のある経験ができ、自分を成長させることが出来ましたし、自分に可能性を感じることが出来ました。このような機会を与えてもらいましたことに対し、学校関係者の皆様に感謝いたします。

ミッチェルハイスクール

人のやさしさを感じることが出来た短期留学

三年二組　渡邊　真衣

私はアメリカでの短期留学で様々なことを学ぶことが出来ました。初めの一週間は、アメリカでの生活になれることが出来ず辛い毎日でした。ホームシックにもかかり、短期留学したことを後悔した日もありました。そんな私を見て、ホストファミリーは気にかけてくれて、日本へ電話をかけてくれたり、ジョークを言って、うまく笑わせてくれたりと本当に親切にしてくれました。週末にはかならずどこかに連れて行ってくれて、乗馬も体験することができました。日本で生活していたら絶対経験できなかったことだと思います。

ホストマザーと食事を作ったこともありました。バターとシナモンの量は考えられないほど多く、砂糖の量にもビックリさせられました。スーパーでは特大のカートで買い物をし、売っている商品は業務用のような大きさでした。

ミッチェル高校では、たくさんの友達が出来ました。ユニークな人たちが多く楽しい毎日でした。留学の後半になると自然と英語が話せるようになりうまくコミュニケーションが取れるようになりました。

このような素晴らしい経験が出来、初めは辛く後悔していた留学も今は行けて本当に良かったと思っています。この短期留学でたくさんの人と関わり、本当のやさしさを肌で感じることが出来ました。小国町をはじめ同窓会、後援会等小国高校には感謝の気持ちでいっぱいです。また留守中もメールで応援し、支えてくれた家族、友達にも感謝しています。短期留学の経験を無駄にせずこれからの生活を送って生きたいと思います。

何事も積極的にすること

三年二組　渡邊　千穂

飛行機は乗り継ぎがあるため、移動時間は修学旅行の時よりも長く大変でした。外国の空港はとても広く、何度か迷いながらもわかる範囲の英語を使いなんとかデンバー空港までたどり着いた時には、片言ではありますが積極的に英語を話す力が少しだけ身についた様な気がしました。空港からは車で二～三時間かけて、ホストファミリーが待っている高校（ミッチェル高校）へ行き、その日の午後にファミリーと対面しました。

家族は、母親と仲良し四姉妹の五人家族です。翌日からは高校一年の長女ミカと一緒に学校へ通いました。現地の学校は授業の時、先生が移動するのではなく生徒が科目の先生のクラスへ行き授業を受けます。

私と真衣さんは英語、日本語、ドイツ語の授業に参加してきました。教室に入ると皆明るく出迎えてくれ、私たちの片言の英語も一生懸命に聞いてくれました。皆の期待に答えるために自分自身も積極的に英語を話そう、伝えようと取り組んだ授業はとても楽しいものでした。また、その授業の光景で一番心に残っている事は、皆さんがミッチェル高校生徒として積極的に授業に取り組んでいたことです。挙手発言が多く活気があり、団結して勉強しているように感じました。

この留学を通して、何事にも怖がらず積極的に挑戦すること、また積極的に参加することの楽しさを学びました。この経験は、自分のこれからの進路、生き方にもつながってくると思います。

お世話になった小国町、小国高校後援会、同窓会の皆さん、それに先生方ありがとうございました。

恩師回想

小国高校大好き！

斎藤　雄一先生

平成三年～十年

私にとっての小国高校は教員としてのスタートを切った学校。思い出がたくさんあり過ぎますので、まず思いつくままに書き連ねてみます。

【一年目】募集停止だった剣道部の顧問になる。部員は二年男子四名のみながら団体で県大会にも出場。小国高校は部活動が盛んだったなあ。

【二年目】生徒会顧問になる。意欲的でユニークな生徒会役員の生徒たちと文化祭に向けて夜十時過ぎまで学校で準備をしたことも。体育祭や予餞会など、行事が多く楽しかったなあ。

【三年目】初めてクラス担任になる。全員の家庭訪問を行い、時には夕食をごちそうになりそのまま泊めてもらったことも。地区ＰＴＡでも美味しい珍しいものをごちそうになったなあ。

【四年目】ミニクーパーという、軽自動車より小さい英国車を購入。小国は豪雪地でも除雪が完璧だから、問題なく運転できたなあ。

【五年目】今は無き独身寮で夕食だけ食べるように。私と同い年の先生も、そこで一緒に下宿していた先生と結婚したなあ。

【六年目】野球部の監督に就任。県内初の女性部長が誕生し、マスコミ各社から取材が殺到したなあ。小国高校野球部、頑張れ！

【七年目】初めての沖縄修学旅行。宿泊先のリゾートホテルで、秋季キャンプ中の横浜ベイスターズの選手やコーチと遭遇したなあ。

【八年目】創立五十周年だから五十㎞歩こう、と提案したら、全校二十五㎞ハイクが実現。田村亮子氏の講演会もあったなあ。

その後私は地元・新庄に戻り、現在は母校に勤務しています。小国を離れて十年経ちますが、小国のことは度々思い出します。小国高校で先生方や生徒から学んだことは、私の指針になっています。小国の美しい自然と美味しい食べ物、そして人々の温かさに触れたくて、もう一度小国高校で勤務したいとも考えます。

小国高校よ、永遠なれ。

小国高校での日々

庄司（中川）里美先生

平成七年～十一年

小国高校で過ごしたのは、いつの間にか十年近く前のことになっていました。というのも、「あの頃」とそれ程遠い過去の事のような実感がないままここまで来たと言うほうが私の感覚としてはふさわしい、そんな時間が小国高校にはあるのです。卒業していった教え子たちが、初めは生徒と教師の間柄だったのが、同じ社会人として、あるいは結婚や出産などの様々な人生経験をつんでいつの間にか同じ一人の人間として共通の話題を持てるようになり、付き合いを続けていられる何とも贅沢な時間を今でも過ごせていられるからかもしれません。

振り返ってみると、大学を出たばかりの教員としてはまだ本当に駆け出しの私を小国の大自然と暖かい人柄が出迎え、そして育ててくださいました。今思い出すと本当に恥ずかしいくらい未熟で、それ故に精一杯の背伸びをして過ごした日々。副担任として初めて関わった高校生はわずか五才の年齢さ。それでも、「イマドキの高校生」を前に戸惑いの連続でした。何とか興味を持ってもらいたいと意気込んだ英語の授業、生徒と一緒にラケットを振った部活動、こちらが驚いてしまうくらいの団結と盛り上がりと成長を見せた沢山の学校行事、そして何より三年間共に過ごしお互いを刺激しあった初めての私のクラス。それらを、当時の保護者や同僚そして地域の方々に支えていただいて得て五年の貴重な時間を過ごしました。本当にありがとうございました。

当時の経験を土台に、現在も日々奮闘中の私。生徒の年代より保護者の年代に近くなりつつあって少しずつ見えてくるものにも変化があるような…。でも、どんなに時間が経っても、私にとって五年の小国町民としての生活は本当に貴重で色あせない大切な時間です。同じ時間を過ごした当時高校生だった皆さん、お元気でしょうか。

おたよりコーナー

創立記念行事に参加して

須貝恵吉（昭和三九年度卒）

沖縄宮古島大会参戦

昨年一〇月一七日に小国高校創立六〇周年記念行事の一環としてバルセロナ・アトランタ五輪の女子マラソンメダリスト有森裕子さんの記念講演が開催されることを「会報興学」の紙面で知り、どうしてもこの行事に参加したくなりました。私が卒業したのは昭和四〇年三月で、今から四三年も前のことです。現在私は隣県の新潟市に居住しているのですが小国町までは遠い距離ではないのにご恩を忘れご無沙汰しておりました。四〇余年ぶりに母校を訪ね小国に泊まってこようかと思うと、もう一遍にあの日あの時の想い出が頭の中を駆けめぐり教室の懐かしい臭いまでが蘇ってきました。卒業後は、縁ありまして新潟県警察官を拝命し、四二年間大過なく奉職させて戴きました。

私は在校中は就学態度、成績共に劣悪な生徒でした。担任の白田先生はじめ先生方には大変お手数をかけてしまい、当時を振り返れば恥ずかしい限りで消え入りたい気持になります。自然豊かな学舎での三年間は人間として大切なものを教えて戴いたと、晩節に至りその思いを深くしております。

話は変わりますが、私は趣味でトライアスロンやマラソンをやっております。時間の許す限り全国を飛び回っております。

昨年はニューヨークマラソンにも出場しました。映画でしか見たことがないニューヨークの街中を自分の脚で走り抜ける気分は最高でした。そんなこともあり、有森選手の講演会は聞き逃すまいと思いましたし、長い時間の壁を越えて母校が私を呼び戻してくれたんだなと自分勝手な解釈をして聴講させて戴いた次第です。折り見て往時の少年達と久闊に叙し杯を重ねたいものです。

あの頃…

横山（保科）順子（昭和五十一年度卒）

今年は小国の雪も少なく雪道の運転が億劫になっている私としては助かっていますが、何年経っても緊張感は抜けず、冬の通勤は一番のストレスです。今回、同窓会報の原稿を依頼されこれも悩みの一つとなり、安易に引き受けてしまった自分に悔やんでいます。

高校時代を振り返ってみると、丁度今頃の受験のことが思い出されます。自家用車もなく、町外へ出掛けることも滅多になかったので受験地に行くこと自体が大変でした。宿の手配や電車の確認等全て自分で準備し、試験の二日前に小国を出発午前十時の汽車に乗りましたが、大雪と吹雪で米坂線は大混乱。米沢に着いたのは夜の九時でした。親戚宅に泊まり、次の日も米沢は大雪のためタクシーが動けず、万世町から米沢駅まで歩いてやっと特急電車に乗れたのでした。でも到着したのは別世界！晴天で高校生はスカートになま足…。冬は長靴しかなかったので、この日のために買ってもらったブーツがとても滑稽にみえてとても恥ずかしかったのを思い出します。でもその時の面接官が小国町のことを知っていて「雪の孤島だね。小国方式って有名なところだよね。」といわれびっくりしたのでした。昭和五十年台初めの頃でしたが、小国が活力ある時期だったのかなと今になって思います。

卒業してから三十年以上が過ぎ、学生時代の四年間を除けば、私はずっと小国町で暮らしています。高校には後援会や子供のスポ少行事などで時々行くこともあり、町内在住のお世話になった先生方とお会いすることもあります。小国を離れた方からみれば、いつも小国高校を身近に感じることが出来ます。現在、高校存続の運動に町全体が力を入れていますが、少子化の現状を考えると心配もあります。しかし、地元にいる者として、出来る限り応援していきたいと考えています。

学校活動を年一回、町民に報告

広島県の街角より

山口(舟山)美穂子
(昭和三十六年度卒)

同窓会員の皆様、こんにちは。沢山の会員の皆様がいらっしゃる中、執筆の依頼をいただき恐縮しております。

小国の暖かい方言のイントネーションを体にしっかりしみ込ませ、小国高校を卒業して四十六年がたちました。

母校も建て代わり時間の長さを感じます。残念ですが訪れたことは一度もありません。中庭でのソフトボール、学校林の下刈り、その他十八歳まで生活していた時間が心の奥底に詰まっており風景と共に色褪せることはありません。

広島県に住んで四十二年、風化したものもある中で、生家から望める飯豊連峰が細胞の中にしっかり組みこまれていたせいか、登山を楽しむようになりました。

一方、二年前には、環境をテーマにした社会奉仕活動の一環として、地元の川の源流の保全活動に取り組むグループに加わりコナラの苗木を植える植樹会に参加しました。こちらは松枯れの影響で山の荒廃が進んでおります。名前入りのプレートも立ち成長を見守って行くつもりです。

昨年十月は、白田先生も参加してくださいまして同窓会があり、私も初参加しました。日頃の辛苦を忘れ楽しむことが出来感謝申し上げます。次回からの同窓会にも多数の参加をと期待しております。その足を小国まで運びました。米沢駅の「天地人」の旗、小国町内の「母校存続」の旗、何と対照的なことでしょう。他高校と比べれば歴史の長さや卒業生の数ではとうてい及ばないかもしれません。でも各地、各業界で活躍しておられます。これから各方面で活躍される人材の教育等も含め、小国高等学校が益々発展されますことを広島県というちょっと遠い空の下より願っております。

近況お知らせ

熊野(小林)由利子
(昭和四十三年度卒)

お便りコーナー御覧の皆様こんにちは、私は懐かしく楽しみにコーナーを読ませて頂いております。

十九号お便りの丹利広さんは、私のいとこで一年先輩、私も高齢の親が小国に一人住んでおり故郷には皆さんと同じ思いがあるのではと同感して読ませていただきました。

見渡せば山、見上げれば山、空気の澄んだ夕焼け空の小国を後に、女生徒三人デパートに就職(皆さんお元気?)私は立川店へ(先輩が一人、大変誇らしく自慢の人でした)一年で三回転勤、結婚の為松戸へ転勤退職。

現在茨城に移住早二十年になりました。主人も還暦を向かえ第二の職場、水戸まで一時間通勤しております。(ちなみに主人も小国高校四十一年度卒)私は次女と同居していて毎日孫の世話に追われながら暮らしています。

小国の冬を、孫達はまだ知らないのですが、私たち夫婦は年に三・四回家族総動員で主人の実家米沢にスキーに出掛けます。(高速道路も全面開通しETC利用で四時間と近くなりました。)

平成二十一年元旦、朝玄関先の車が雪で見えなくなりました。私が子供の頃小国は豪雪地帯で、米坂線は雪の為に何日も止まり、陸の孤島になりヘリコプターで救援物資を運んで来たりして学校に行くのがとても辛かった事を思い出します。今は温暖化の影響で考えられませんが、しかし、孫達にはダイヤモンドダストが見えたりすると、小国もこんな所だったんだと聞かせています。「キラキラきれい、まだ見る見える…」写真撮って、「撮れないよう…」また来ようネ、毎年のスキーが楽しみです。

情が厚く暖かい人たち、高校の存続に力を入れていただいた皆様方に感謝します。他県で暮らしている私は、楽しみも見つけ明るく強く元気で暮らして生きたいと思います。

部活動紹介

陸上競技部

沼澤強太君

今現在の小国高校陸上部は、十二人という少ない人数で一人一人がそれぞれ目標を立てて大会で少しでもいい記録が出せるように、日々頑張っています。昨年は、一年生が県新人大会で優勝し、東北新人大会出場と言うとてもすばらしい成績を残せました。

今私たちは、冬季練習に入っていて、春の大会に向けて基礎体力を上げる練習を中心にして頑張っています。アップでは、十二分間走やサーキットなどで冬の時期は、寒くて怪我をしやすいので、しっかり体を温めるのと同時に持久力をつけるようにしています。メイン練習では、短距離、跳躍、投擲、中長距離の三つのグループに分かれてそれぞれ違うメニューを行っています。

短距離と跳躍は、昨年は県大会に出場したものの良い結果が残せず終わってしまったので、今年は自主トレを積極的にして来年度は良い記録を残します。

昨年の投擲は県大会でベスト八には入ったものの、あと一歩のところで東北大会出場を逃したので、来年度はレベルを上げて必ず東北に行きます。

中・長距離は、昨年良い記録が出なかったので、今年はペース走や四十分間走などサーキットの意味や目的をしっかり理解し練習したいと思います。

今は、毎日つらい練習メニューをこなし、春の大会では全員が県大会に出場し、良い記録を残せるように部員全員が一丸となって日々頑張っています。

平成19年度　同窓会会計決算書

収入の部

（単位：円）

科目	当初予算額	補正額	予算現額	収入済額	増減	摘要
会費	1,000,000	0	1,000,000	747,230	△252,770	振込納入金 手数料引金額
入会金	160,000	0	160,000	160,000	0	@5,000 ×32名
繰越金	40,326	0	40,326	40,326	0	前年度 繰越金
繰入金	100,000	200,386	300,386	300,386	0	特別事業基金 より繰り入れ
雑収入	674	0	674	64,365	63,691	預金利子 アメリカ短期留学基金
合計	1,301,000	200,386	1,501,386	1,312,307	△189,079	

支出の部

（単位：円）

科目	当初予算額	補正額	予算現額	支出済額	増減	摘要
需要費	20,000	0	20,000	19,440	△560	役員弁当代・ 会報発送手伝い 生徒弁当代
会議費	180,000	0	180,000	132,648	△47,352	各種役員会 諸経費等
通信費	200,000	0	200,000	148,709	△51,291	はがき・切手
印刷費	70,000	0	70,000	30,345	△39,655	お知らせ 印刷等
使用料賃借料	5,000	0	5,000	0	△5,000	
事務室維持費	5,000	0	5,000	0	△5,000	同窓会事務室 維持諸経費
慶弔費	10,000	0	10,000	31,658	21,658	弔電等 職員葬儀香典代他
教育助成費	300,000	0	300,000	232,753	△67,247	アメリカ短期留学 卒業記念品 講演謝礼等
支部助成費	100,000	0	100,000	68,000	△32,000	町内地区 11支部
特別事業基金	50,000	0	50,000	0	△50,000	
事務費	30,000	0	30,000	16,251	△13,749	事務局 （用紙等）
事業費	320,000	200,386	520,386	583,339	62,953	会報発行等 存続期成同盟会費他
予備費	11,000	0	11,000	0	△11,000	
合計	1,301,000	200,386	1,501,386	1,263,143	△238,243	

平成20年度　同窓会会計予算書

収入の部

（単位：円）

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
会費	1,000,000	1,000,000	0	年会費 @1,000×1,000名
入会金	250,000	160,000	90,000	卒業生入会金 @5,000×50名
繰越金	49,164	40,326	8,838	前年度繰越金
繰入金	1,300,000	100,000	1,200,000	特別事業基金より 繰入
雑収入	836	674	162	預金利息等
合計	2,600,000	1,301,000	1,299,000	

支出の部

（単位：円）

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
需要費	30,000	20,000	10,000	用紙等
会議費	200,000	180,000	20,000	各種役員会経費
通信費	200,000	200,000	0	はがき・切手
印刷費	120,000	70,000	50,000	お知らせ印刷等
使用料賃借料	5,000	5,000	0	
事務室維持費	5,000	5,000	0	
慶弔費	10,000	10,000	0	
教育助成費	300,000	300,000	0	アメリカ短期留学 卒業記念品
支部助成費	140,000	100,000	40,000	町内支部助成
特別事業基金	0	50,000	△50,000	
事務費	50,000	30,000	20,000	
事業費	1,510,000	320,000	1,190,000	会報発行等 記念事業講演等
予備費	30,000	11,000	19,000	
合計	2,600,000	1,301,000	1,299,000	

平成二十年度会費納入者

平成二十年度に会費を納入していただいた方々です。一口千円ですが五十一口もの高額納入者もおられました。毎年多くの方々に会費を納入していただき、大変感謝申し上げます。おかげ様で他校に劣らない立派な創立六十周年記念事業を執り行う事が出来ました。

毎年四名の生徒たちが、アメリカへ短期留学できるのも同窓会会員の皆様の母校への思い、後輩たちへの愛の賜であると思います。これからも母校の教育を助成する趣旨にご賛同いただき会費納入にご協力お願いいたします。

大口納入者
（）内は卒業年度

五十一口　五万千円
吉田　文雄(26)
三十一口　三万千円
遠藤　信義(33)
二十一口　二万千円
杉山　三恵(40)
二十口　二万円
佐藤　祐一(31)
十一口　一万千円
栗原　六蔵(25)
後藤　哲美(25)
遠藤　乙彦(26)
梅津　弘(30)
後藤　輝雄(31)
近　佩(39)
川崎　秀樹(43)
十口　一万円
島貫　満(32)
田中　達男(33)
八口　八千円
佐藤　静雄(30)
六口　六千円
山下　富子(40)
五口　五千円
小林　寿(26)
永井　主計(27)
曽根原静雄(32)
五十嵐武子(34)
高橋　榮子(35)
金田　輝義(36)
齋藤　詔一(36)
佐川　安昭(36)
近　光正(37)
坪川　民主(39)
栗田　寛美(42)
長沼　節雄(42)
米野　仁志(43)
佐藤　正二(44)
伊藤　忠昭(53)
三口　三千円
船山　重吉(31)
井上　敏郎(35)
鈴木　春祥(35)
栗田　金雄(36)
渡辺　競(31)

梅津　典雄(38)
渡部　和夫(50)
二口　二千円
渡部　六郎(25)
加藤治郎右エ門(28)
今　新隆(29)
須貝　タミ(33)
遠山　雅晴(33)
加藤　喜一(34)
仁科　光悦(34)
田村　浩(35)
小山　征次(35)
小山　正男(37)
佐藤　貞夫(37)
中村　永大(37)
羽田みえ子(40)
神保たえ子(41)
丹　四郎(42)
見川　文雄(42)
渡辺美佐江(43)
木村　淳子(44)
坂上　春美(61)

昭和24年度卒業（第一回）
飯沢　利雄
井上　博
加藤　貞雄
阪井　敏行
須貝　宏
宮田　末吉
横山　安男
渡部　昭三

昭和25年度卒業（第二回）
佐藤　哲夫

昭和26年度卒業（第三回）
安部　周次
木村　芳雄
佐藤　確彌
竹内　末蔵
塚野　隆
渡部　昭七

昭和27年度卒業（第四回）
小野　太多男
角田　典子
佐藤　和彦
佐藤　歌子
重川　文子
高橋　吾郎

塚原　哲司
松井　参次
三井　本
渡辺　鉄雄
江口　百合子
遠藤　芳廣
小池　清隆
小出　啓了
笹　秀吾
仁科　吉男
松田　雪子
加藤　辰巳
上　十太郎
川　修造
佐藤　一
末　
清野　啓次
竹田　英雄
伊藤　正雄
宇津木百合子
遠藤　謙悦
遠藤　治
今　
斎藤　康男
斎藤　文雄
佐藤　七郎
佐藤　哲
櫻井　富美
笹　そう
塩川　惣市
柴田　重博
塚野　信
舟山　隆司
松原　寅四郎
渡辺　一郎
渡辺　松子
渡辺　健三

昭和28年度卒業（第五回）
昭和29年度卒業（第六回）
昭和30年度卒業（第七回）
昭和31年度卒業（第八回）

安部　勝子
伊藤　志郎
伊藤　康之
加藤　三郎
鹿島　よし子
杵淵　洋一
木村　功

小林　昇
今　厚生
佐藤　好美
佐藤　栄一
丹　利美
秘多　信
松永　純代
森澤　ハツエ
安達　幸夫
伊藤　節子
伊藤　光介
伊藤　博雄
井上　真典
木村　孝雄
後藤　邦雄
斉藤　貞作
佐藤　喜千弥
佐藤　忠
高橋　恒子
高橋　京子
田路　竜三郎
丹　
富樫　忠義
野本　洋三
保科　一雄
矢部　文雄
山下　エイ子
渡部　ます子
遠藤　昭治郎
遠藤　美智雄
草場　タツ子
大久保　勝夫
塚原　弘
羽田　正己
早川　きぬい
原田　由紀子
舟山　政司
増田　初
山田　辰美

昭和32年度卒業（第九回）
昭和33年度卒業（第十回）

渡辺　信子
渡邊　博
川口　かつの

昭和34年度卒業（第十一回）

安部　新太郎
石井　幸子
伊藤　紘一
大富　洋一子
木戸　光一
金子　憲二
小池　忍
小島　正弘
高橋　親美
監物　忍
徳武　清美
徳岡　健治
富永　三男
西沢　洋子
西平　年
原　幸夫
原田　敏雄
平田　栄久子
藤田　修平
舟山　俊策
舟山　二三子
松尾　幸子
松本　健治
森田　のり子
山　善一
山　オミヨ
山　真典
山　博雄
山　忠
山　勇一
山　サダ子
山　源市子
山　靖子
山　ユウ子
山　洋子
山　ヨシ子
山　タミ子
山　八保子
山　吉子
山　正則
山　きぬ子
山　一雄
山　幸雄
山　晃
山　ふみこ
山　恵吉
山　清七
山　亥三郎
山　勝男
山　則子
山　勉
山　正史
山　潔
山　秋昭
山　孝壽
山　忠子
山　昇
山　常雄
山　美穂子
山　順二郎
山　登志子
山　津代志
山　三郎
山　一之
山　勝男

昭和35年度卒業（第十二回）
昭和36年度卒業（第十三回）
昭和37年度卒業（第十四回）

佐藤　静子
佐藤　栄子
佐藤　昭子
佐藤　勝子
佐藤　征夫
佐藤　求
佐藤　忠吾
佐藤　竹タミ子
佐藤　ヨシ子
佐藤　喜蔵
佐藤　勇次郎
佐藤　二男
佐藤　三千代
佐藤　誠一
佐藤　昌晴
佐藤　和弘
佐藤　善吉
佐藤　豊美
佐藤　松男
佐藤　民子
佐藤　修
佐藤　綾子
佐藤　ふさ
佐藤　マキ子
佐藤　ヨシ子
佐藤　則子
佐藤　勝子
佐藤　清七
佐藤　亥三郎
佐藤　昭子
佐藤　恵吉
佐藤　ふみこ
佐藤　貴子
佐藤　三郎
佐藤　森民子
佐藤　一之
佐藤　勝見
斎藤　喜久子
斎藤　吉子
斎藤　八保子
斎藤　勝栄
斎藤　勝則
斎藤　栄子
斎藤　勉
斎藤　孝子
斎藤　正則
斎藤　ヨシ子
斎藤　ふさ子
斎藤　ヨシ子
斎藤　ヨシ子
斎藤　ヨシ

盛田和子　金久正美　今旗江雄道　櫻井秀一　佐藤博　須貝京子　丹羽宣明　舟山哲太郎　船山利光二　宮木下洋子　八部公子　渡洋子

昭和42年度卒業（第十九回）

安部俊雄　新井てつ　伊藤謙二　都築みつえ　今井文子　今野光一　大野堅一　駒澤次孝　今斎藤とき子　佐藤政志　佐藤徳子　佐藤悦子　佐藤武次　佐藤みちよ　志田やよ江　嶋崎美紀子　菅原文雄　瀬水美重子　高橋実　高力公二　丹利広　丹中博子　平田雪子　舟山亨二　舟山美穂子　森下美江子　盛田和子　渡辺節子　今政行　安部良明　渡遠藤春男　遠藤武吉　伊藤善一

昭和43年度卒業（第二十回）

梅津

仁場俊春　岡村雪子　奥田あさ子　奥田京子　加藤隆巳　金川芳昭　市川幸治　伊藤美保子　伊藤光二　舟山政実　木村三郎　後藤広仲　熊野由利子　桐生武　舟山宣明　舟羽道雄　丹須貝博　佐藤秀一　櫻井旗江　今金正美　大場みどり　岡村あさ子　奥田京子　加藤隆巳　金川芳昭　市川幸治　伊藤美保子　伊藤光二　舟山政実　木村三郎　後藤広仲　熊野由利子　桐生武　舟山宣明　舟羽道雄　丹須貝博　佐藤秀一　櫻井旗江　今金正美　大場みどり　遠藤仁

昭和44年度卒業（第二十一回）

石垣和男　伊藤金栄　工藤春男　小山昇　今寛二　舟山新吉　本間さだ子　舟山恵美子　半田新吉　二宮武一　高野清子　瀬古綾子　杉山正雄　塩川徹　坂上幸子　斎藤敬子　舟山京子　今野寛　小山昇　工藤春男　伊藤金栄　石垣和男

昭和45年度卒業（第二十二回）

伊藤和夫　小野寺義信　小林村英彦　木村正次　木小松き　小林の　今野武　佐藤慎二　佐藤栄一　塩田義昭　塩川義子　佐藤栄一　塩田義昭　塩川義子　佐藤慎二　今野武　佐藤栄一　塩田義昭　塩川義子　佐藤慎二　今野武　小松き　木村の　木村正次　小林英彦　小野寺義信　伊藤和夫

昭和46年度卒業（第二十三回）

舟山忠夫　長澤由紀子　金川芳巳　市川幸治　伊藤美保子　伊藤光二　舟山政実　木村三郎　後藤広仲　熊野由利子　桐生武　舟山宣明　舟羽道雄　丹須貝博　佐藤秀一　櫻井旗江　今金正美　大場みどり　岡村あさ子　奥田京子　加藤隆巳　金川芳巳　市川幸治　伊藤美保子　伊藤光二　舟山政実　木村三郎　後藤広仲　熊野由利子　桐生武　舟山宣明　舟羽道雄　丹須貝博　佐藤秀一　櫻井旗江　今金正美　大場みどり　遠藤仁

昭和47年度卒業（第二十四回）

七島英子　田宮幸子　鈴木なる子　佐藤清子　斎藤義昭　後藤勝男　小池昌子　川上光二　伊藤美保子　伊藤幸治　市川芳巳　金川芳巳　市川幸治　伊藤美保子　伊藤光二　舟山政実　木村三郎　後藤広仲　熊野由利子　桐生武　舟山宣明　舟羽道雄　丹須貝博　佐藤秀一　櫻井旗江　今金正美　大場みどり　遠藤仁

昭和48年度卒業（第二十五回）

丹渡部則夫　和田明　本江津夜子　松永美智子　舟山武久　高橋幹雄　仙石京子　佐藤武彦　佐藤重則　斎藤とみ子　後藤恵一　小池智子　木村義弘　木戸健治　菊池のり子　川上和彦　片桐英二　岩沢ちか　伊藤正和　秋山登枝子　七島英子　田宮幸子　鈴木なる子　佐藤清子　斎藤義昭　後藤勝男　小池昌子　川上光二　伊藤美保子　伊藤幸治　市川芳巳　金川芳巳　市川幸治　伊藤美保子　伊藤光二　舟山政実　木村三郎　後藤広仲　熊野由利子　桐生武　舟山宣明　舟羽道雄　丹須貝博　佐藤秀一　櫻井旗江　今金正美　大場みどり　遠藤仁

昭和49年度卒業（第二十六回）

会田信康　盛田信明　佐藤京子　斎藤恭子　斎藤悦子　今藤彦　川崎功　佐藤武則　佐藤重則　斎藤とみ子　後藤恵一　小池智子　木村義弘　木戸健治　菊池のり子　川上和彦　片桐英二　岩沢ちか　伊藤正和　秋山登枝子　七島英子　田宮幸子　鈴木なる子　佐藤清子　斎藤義昭　後藤勝男　小池昌子　川上光二　伊藤美保子　伊藤幸治　市川芳巳　金川芳巳　市川幸治　伊藤美保子　伊藤光二　舟山政実　木村三郎　後藤広仲　熊野由利子　桐生武　舟山宣明　舟羽道雄　丹須貝博　佐藤秀一　櫻井旗江　今金正美　大場みどり　遠藤仁

昭和50年度卒業（第二十七回）

則雄　安部和義　鹿嶋義行　金成啓子　工藤優子　舟山隆一　舟山薫　今藤源志　今藤権市　小野泰浩　井上純一　五十嵐泰子　今清一　今めぐみ　佐藤礼子　舟山澄絵　横山美保子　河村広智　富田治　横山美保子　舟山澄絵　河村広智　富田治　塚原新吾　佐藤敏弘　斎藤利昭　内田睦子　伊藤光広　伊藤ひろ子　伊藤里子

昭和51年度卒業（第二十八回）

友夫　仁科洋一　高野伊藤和子　伊藤夏奈子　木村隆　舟山祐一　舟山春　佐藤隆　今藤正子　今藤きよ美　勝見正敏　伊藤文夫　伊東明美　伊藤喜美男　後藤恵一　小池智子　木村義弘　木戸健治　菊池のり子　川上和彦　片桐英二　岩沢ちか　伊藤正和　秋山登枝子　七島英子　田宮幸子　鈴木なる子　佐藤清子　斎藤義昭　後藤勝男　小池昌子　川上光二　伊藤美保子　伊藤幸治　市川芳巳　金川芳巳　市川幸治　伊藤美保子　伊藤光二　舟山政実　木村三郎　後藤広仲　熊野由利子　桐生武　舟山宣明　舟羽道雄　丹須貝博　佐藤秀一　櫻井旗江　今金正美　大場みどり　遠藤仁

昭和52年度卒業（第二十九回）

米野悦男　舟山栄男　舟山暁美　長井弘美　寺沢ひとみ　丹久明　佐藤之義子　斎藤久きよ子　今藤正敏　勝見文夫　伊東明美　伊藤喜美男　後藤恵一　小池智子　木村義弘　木戸健治　菊池のり子　川上和彦　片桐英二　岩沢ちか　伊藤正和　秋山登枝子　七島英子　田宮幸子　鈴木なる子　佐藤清子　斎藤義昭　後藤勝男　小池昌子　川上光二　伊藤美保子　伊藤幸治　市川芳巳　金川芳巳　市川幸治　伊藤美保子　伊藤光二　舟山政実　木村三郎　後藤広仲　熊野由利子　桐生武　舟山宣明　舟羽道雄　丹須貝博　佐藤秀一　櫻井旗江　今金正美　大場みどり　遠藤仁

昭和53年度卒業（第三十回）

川部美千代　安部紅仁子　伊藤広恭　勝見則広　勝見俊明　栗田ゆり　栗田澄絵　今清一　今めぐみ　佐藤礼子　舟山澄絵　横山美保子　塚原新吾　佐藤敏弘　斎藤利昭　内田睦子　伊藤光広　伊藤ひろ子　伊藤里子

昭和54年度卒業（第三十一回）

舟山紀子　伊藤勝則　栗田俊明　栗田ゆり　今清一　今めぐみ　佐藤礼子　舟山澄絵　横山美保子　塚原新吾　佐藤敏弘　斎藤利昭　内田睦子　伊藤光広　伊藤ひろ子　伊藤里子

昭和55年度卒業（第三十二回）

船山博哉　舟山紀子　塚原新吾　斎藤ひとみ　斎藤三代治　今藤権市　今藤源志　小野泰浩　井上純一　五十嵐泰子　今清一　今めぐみ　佐藤礼子　舟山澄絵　横山美保子　塚原新吾　佐藤敏弘　斎藤利昭　内田睦子　伊藤光広　伊藤ひろ子　伊藤里子

昭和56年度卒業（第三十三回）

中原貴江子　相馬昌佳　佐藤寿博　片倉大三郎　伊藤広美　伊藤寛　大谷喜代志　大谷敬津　今浩治　斎藤みどり　佐藤忠明　須貝篤志　須貝敦之　鈴木幸二　佐藤貴文　佐藤政昭　斎藤智美　齋藤春香　今日出男　笠原章子　伊藤昌司

昭和57年度卒業（第三十四回）

塩川尚克　舟山良一　舟山弘枝　片山浩幸　舟田牧子　松辺保　渡貫江子　島智子　佐藤克彦　斎藤靖剛　小林祐子　小松智　斎藤春子　斎藤聡　佐藤貴之　佐藤紀明　井上誠子　井上優子

昭和58年度卒業（第三十五回）

佐藤雅子　桜井洋子　下林義昭　鈴木のり子　横山宏　斎藤美和　桜井由幸　佐藤淳一　佐藤靖彦　須貝美和子　佐藤貴美子　塚原幸子　小林かおり　塚原美保子　斎藤嘉明　斎藤祐一　今和博　安部正義

昭和59年度卒業（第三十六回）

益田昭浩　塩川秀夫　斎藤三千代　後藤悦子　川村えり子　片桐良子　杉山秋彦　佐藤麻美　斉藤勤　安部奈緒子　小林かおり　塚原幸子　高橋竜司　志田朗　塩川さとみ

昭和60年度卒業（第三十七回）

神保潤一　伊藤竜一　栗田敏　須貝ルミ　塚原路恵　高野和徳　塚原康子　杉山彦　佐藤麻美　斉藤勤　安部奈緒子　小林かおり　塚原幸子　高橋竜司　志田朗　塩川さとみ

平成元年度卒業（第四十回）

平成2年度卒業（第四十二回）

平成3年度卒業（第四十三回）

平成4年度卒業（第四十四回）

平成5年度卒業（第四十五回）

平成6年度卒業（第四十六回）

平成7年度卒業（第四十七回）

平成8年度卒業（第四十八回）

平成9年度卒業（第四十九回）

平成10年度卒業（第五十回）

平成11年度卒業（第五十一回）

平成12年度卒業（第五十二回）

平成13年度卒業（第五十三回）

平成14年度卒業（第五十四回）

平成16年度卒業（第五十六回）

平成18年度卒業（第五十八回）

（平成二十一年二月十五日現在）

平成21年度総会の案内

平成21年度総会を下記日程にて行いますので、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

○期　日：平成21年5月22日(金)
○時　間：午後6:00より
○会　場：みよしや
　　0238-62-2224
○会　費：3,000円
○申し込み：小国高校事務局
　　TEL(0238)62-2054
　　FAX(0238)62-2055
E-mail：dousoukai@ygt-oguni-h.ed.jp

町民の皆さんと共に

生徒会長　今　竜哉

新生徒会長の今竜哉です。小国高校は創立から六十周年という節目を迎えました。そんな年に会長に就任できたことはとても喜ばしいことだと思います。そして、年々活発化していく我が校の取り組みを支えて下さる学校関係者をはじめ、町民の皆様には感謝の思いでいっぱいです。

来年度の学校行事は、町民の皆さんにも楽しめる催しを考えています。今期の生徒会執行部は一人一人の個性がバラバラで、意見をまとめるのが大変そうですが、とても、いい意見を持った人たちが数多く集まりました。執行部一同が協力し合って、楽しく、思い出に残る学校行事を企画して行きたいと思っています。

今年も残りわずかとなりました。まだまだ不安な点もありますが、来年に向けて今ある課題を解決し、小国高校始まって以来の最高の生徒会とだれもがうなずく活動をしていきたいと思います。

それでは、これからも小国高校をよろしくお願いします。

20年度進路状況

小国高等学校進路指導課
（平成20年12月末現在）

進路決定状況

進路先	進学 大学	短期大学	専門学校等	大学校等	その他	就職 西置賜	県内(西置賜外)	県外	就職進学 県内	県外	公務員 県内	県外	自家・自営・他
計	6	7	12	1	0	12	2	5	1	1	0	0	1

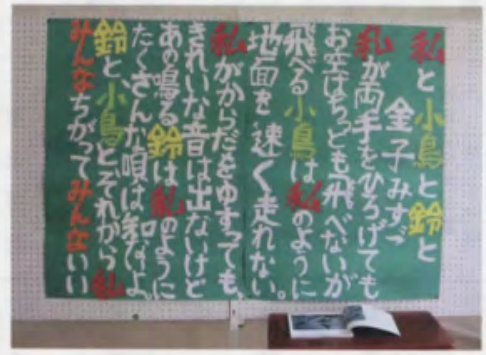
進学先

【大学】
山形大学(3)・東北学院大学・国際医療福祉大学・駒沢大学
新潟清陵大学
【短期大学】
山形県立米沢女子短期大学・山形短期大学(2)
羽陽学園短期大学(3)・郡山女子大学短期大学部
【専門学校等】
山形美容専門学校・三友堂病院看護専門学校
長谷柳絮医療福祉専門学校・ハンサム銀座理容美容専修学校
新潟調理師専門学校・新潟医療福祉カレッジ
新潟デザイン専門学校・アップルスポーツカレッジ
新潟リハビリテーション専門学校・新潟病院付属看護学校
東京アニメーションカレッジ専門学校
ESPミュージカルアカデミー・バンタンデザイン研究所
【大学校等】
山形県立農業大学校・山形工科短期大学校

就職先

【西置賜】
コバレントマテリアル㈱小国事業所(4)・コバレントマシナリ㈱(2)
日本重化学工業㈱小国事業所(2)・荒川興業㈱・㈱横川建設
旭電機㈱長井工場・小笠原建設㈱・㈲いいで旅館・庄左ェ門
【県内(西置賜外)】
リーベルコーポレーション㈱第一ほうせい・米沢リネンサプライ㈱
【県外】
㈱向滝旅館・㈱銀座・㈱コモディイイダ・社会福祉法人 幸済会
㈱岬館・㈱赤倉ホテル

20年度ワープロ実務検定 情報処理検定合格者



今年度は、上級合格者のラッシュと本校初の記録が目立った。

ワープロ実務検定第一級には、一年生三名が合格山形県初である。二級には一年生七名合格本校初である。また、念願の情報処理検定第一級には、三年生一名が合格本校初である。二級には二年生三名が合格しており来年度に期待できる。三級には一年生が全員挑戦し、本校初の七十五％の合格率であった。

情報処理検定1級・2級合格者

2級 2年2組 渡部　陣

2級 2年2組 今　竜哉

2級 2年1組 木村 智聡

1級 3年2組 船山 理恵子

ワープロ実務検定1級合格者

1年2組 矢部 理沙子

1年2組 伊藤 祥希

1年1組 八幡 春菜

事務局だより

平成二十年十月十七日創立六十周年記念式典が盛大に挙行されました。事業として、有森裕子氏による記念講演会を開催いたしました。中学生、高校生、一般の方等総勢六百人程の方に聴講していただきました。母親たちの目からは、涙目で聞いていた人が多く印象に残りました。

もう一つの事業として七月になって決定した、「花回廊おぐに」生徒たちと共に土を作り種を蒔いて、苗木を育て十月の記念事業にあわせ町内や、役場、アスモなどにフラワーポットを飾りました。

事業費として百五十万円、同窓会の事業基金より八十九万円、小国町から五十万円の補助金を出していただきました。他は学校、後援会からの拠出で盛況に執り行う事が出来ました。

例年春に開催していた同窓会総会を、記念事業終了後午後六時より、ら久よし亭に於いて行い、議事もすべて承認いただき、懇親会も盛大に開かれました。

〈編集委員〉
栗田　金男・神保たえ子
駒澤　堅一・原田千鶴子